

不稔米を発生させるイネカメムシの被害にご注意ください

- イネカメムシの発生が近年、拡大傾向にあります。
- イネカメムシは、基部斑点米を発生させる他、出穂期に籾の基部を加害することにより、**不稔米を発生**させます。
- 発生量が多く、適期の防除が実施されていない場合は、**大幅な減収となる可能性**があります。
- 他の主要な斑点米カメムシ類と異なり、穂揃い期以降ではなく**出穂期に防除**することが重要です。



イネカメムシの成虫



イネカメムシ幼虫 (5齢)



基部斑点米

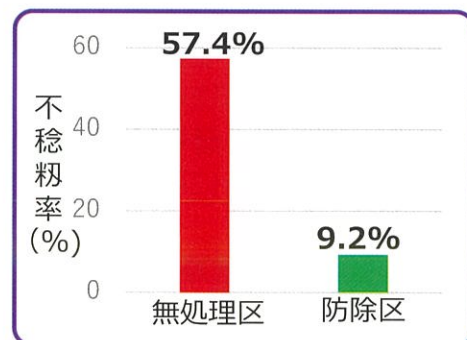


図 イネカメムシの不稔米に対する防除効果

注)防除区：登録農薬の散布を出穂期0日後と出穂期14日後に実施
山口県農林総合技術センターの試験研究結果から抜粋

イネカメムシに対する防除対策

○情報のチェック

都道府県の病害虫防除所が発表する発生予察情報などの病害虫の防除に関する情報をこまめに確認し、**地域の発生状況を把握**しましょう。

○圃場内への初期の侵入を把握

圃場の見回り、白色粘着板トラップの利用等により、**圃場への初期の侵入の把握**に努めましょう。他の斑点米カメムシ類と異なり、イネカメムシは稲への嗜好性が高いため、畦畔や水田の周辺のイネ科雑草で確認されることは少ないです。

○防除の実施

イネカメムシの発生量が多いと判断した場合は、**出穂期の臨機防除**を実施しましょう。また、過去から発生量が多く、被害が懸念される地域は、**出穂期の防除を計画的に実施**しましょう。防除後も圃場の発生状況を確認するために、圃場をよく観察しましょう。

※地域や栽培体系などにより、使用する薬剤など、効果の高い防除体系は異なります。
都道府県が発表する情報に基づき、イネカメムシに対して、より効果の高い防除を実施してください。

都道府県の病害虫
防除所のHP一覧



イネカメムシに対する防除対策（補足）

◆これまでの斑点米カメムシ類との違い

	イネカメムシ	これまでの主要な斑点米カメムシ類
種類	 イネカメムシ	 ホソハリ カメムシ  クモヘリカメムシ  アカスジ カスミカメ
生態	- 越冬場所（林縁の落葉下など）から、7月中旬頃直接水田に侵入する - イネのみで増殖する - 口針を出穂直後におけるイネの小穂軸に刺し吸汁すると不稔に、その後籾の基部に刺すと基部斑点米になる - 盛夏期の日中はイネの株元に潜み、夜間から午前中に穂へ来ることが多い	- 越冬場所から、5月頃畦畔や土手の出穂したイネ科雑草などに飛来し増殖する（草刈りが防除対策となる）。その後イネが出穂する頃から水田に侵入する - 口針をイネの籾に刺し吸汁し、これが籾の未熟な時期であると不稔に、玄米がある程度肥大した時期であると斑点米になる
防除適期	1回目)出穂期（全莖数の40～50%が出穂） 2回目)1回目の10日後	1回目)穂揃期（全莖数の80～90%が出穂）の3日後 2回目)1回目の10日後

◆防除薬剤例

商品名	希釈倍数・使用(液)量 (/10a)	使用時期	本剤の使用回数
スタークル液剤 10	1,000 倍・60～150 L	収穫 7 日前まで	3 回以内
キラップフロアブル	1,000～2,000 倍・60～200 L	収穫 14 日前まで	2 回以内
トレボン EW	1,000 倍・60～150 L	収穫 14 日前まで	3 回以内
スタークル豆つぶ	—・250g	収穫 7 日前まで	3 回以内
キラップ粒剤	—・3 kg	収穫 14 日前まで	2 回以内

※）各薬剤の登録内容は令和6年4月15日現在です。使用前にラベルをよく読んでください

※）粒剤では、処理を数日早めてください

◆防除の勘所

- ・**圃場の見回り**（イネカメムシはイネの株元に注意）によりカメムシの種類を確認しましょう
- ・イネカメムシの発生量が多いと判断された場合は、**出穂期の薬剤防除**により密度を下げましょう
（島根県病害虫防除所 HP：https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/）
- ・「コシヒカリ」など**出穂の早い品種からの防除**により密度を下げましょう
- ・**飼料用米や WCS 用イネ**での発生にも注意しましょう（使用できる薬剤に制限あり）

御相談等がありましたらお近くの J A 営農センターや県農業振興部（農業部）までお問い合わせください

島根県農業振興協会・島根県農業技術センター・島根県病害虫防除所・J A しまね